

広角

伝統を生かす

日本がより一層世界に貢献し、世界から尊敬される存在となるには何に取り組みればよいのか。私はそのための象徴的なテーマの一つが環境だと考えている。省エネや公害問題への対応を通じて培った技術力は世界トップレベルであり、日本には環境先進国となり得る素地がある。

環境問題への対応では、リサイクル(再生)、リユース(再利用)、リデュース(減量)の頭文字をとった「3R」の取り組みが重要であるが、日本はその面でも世界をリードする素地が備わっている。

④ 環境先進国に向けて

た「3R」の取り組みが重要であるが、日本はその面でも世界をリードする素地が備わっている。

江戸時代には人糞やかまどの灰を肥料にし、古着を再利用し、古紙を再生して何度も使うことが当たり前に行われてきた。明治、大正、昭和と時代が変遷し、モノや資源が豊富に入手できるようになって、3Rの精神は「もったいない」

という言葉と共に、家庭や地域で受け継がれてきた。だが、いつごろからかこうした伝統が廃れ、食べ物

を大量に廃棄するような国になってしまった。昨年12月に読んだ新聞に、英国ではクリスマスプレゼントの

本ではそういう姿もあまり見られなくなった。

環境問題は日本に「もったいない」という言葉と3Rの精神を思い起こさせたい。今後環境技術とともに、

証を取得した中小企業を対象に金利を優遇するローンや、環境関連製品を扱う企業の貿易取引や海外進出を

さらに、排出量取引の小額購入スキームや、住宅ロ

私はその準備委員長を務めている。アジア地域の環境問題は、日本と風土が似ていることもあり、日本の経験や知見を大いに活用できる。展示会やビジネスを通じてアジアが抱える環境への課題解決に協力し、地域

全体の持続的成長のために少しでも貢献できればと考えている。

と言われている。しかし基本は高い目標を将来目標に掲げ、それに至る中期目標をマイルストーンとして作っていくという考え方で進めるべきだ。ただミクロの側面から見れば、経営に大きな影響を受ける産業もある。そういうところには、

影響を緩和する措置を国が講ずるといった対応をとり、話が前に進むようにすることも必要だろう。

といった新興国も巻き込んで、削減への取り組みを早期に実行段階へと移行していかなければならない。

私は冒頭で「今年はどうなるのか先が見えない」と書いた。ただ今年は五年であるが、丑の刻と言えは夜中の1時から3時。一番真っ暗で、お化けがでるか、泥棒がでるかといった時間で、細心のリスク管理が必要だ。しかしまだ兆候は見えないが、必ず夜明けは来る。今は夜明け後の新しい秩序のなかで、日本がどのような立ち位置を占めるのかを決める重要な時だ。そういう思いでわれわれ自身も努力していかなければならないのではないか。

三井住友フィナンシャルグループ社長 北山 禎介

技術と「3R」で世界をリード

ラッピングに日本の風呂敷を推奨しているという記事があった。一人の日本人として誇らしい気持ちになったが、本家の日本

3Rの取り組みでも世界をリードするようになれば、日本は環境先進国として世界に貢献し尊敬されるようになるだろう。環境問題への取り組みでは金融機関の果たす役割も少なくない。当社グループでは、環境認

3月19日からフィリピン・マニラで国際機関アジア生産性機構(APO)などが主催する「エコプロダクツ国際展」が開催される。

今年2013年以降の世界的な温暖化ガスの排出削減の枠組み(ポスト京都議定書)を策定する年だ。基準年設定の問題やすでに取り組みを始めている国とそうでない国との不公平感などさまざまな課題がある

京都の議論を先送りにしてしまうという声も上がっている。削減の枠組み(ポスト京都議定書)を策定する年だ。基準年設定の問題やすでに取り組みを始めている国とそうでない国との不公平感などさまざまな課題がある

暗闇と夜明け

経済危機の影響でポスト京都の議論を先送りにしてしまうという声も上がっている。削減の枠組み(ポスト京都議定書)を策定する年だ。基準年設定の問題やすでに取り組みを始めている国とそうでない国との不公平感などさまざまな課題がある

暗闇と夜明け

4月に坂根正弘コマツ会長

に執筆いただきます)